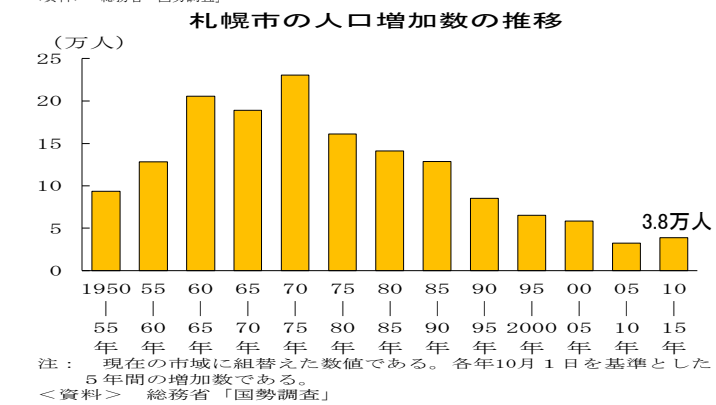
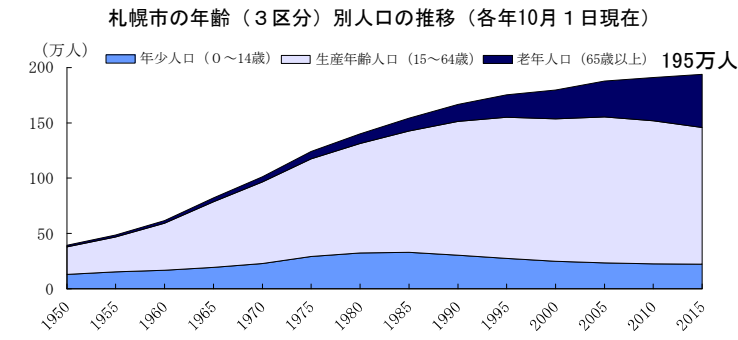


1 札幌市の人口推移

札幌市は戦後一貫して人口増加が続いているが、増加規模は近年減少傾向である。

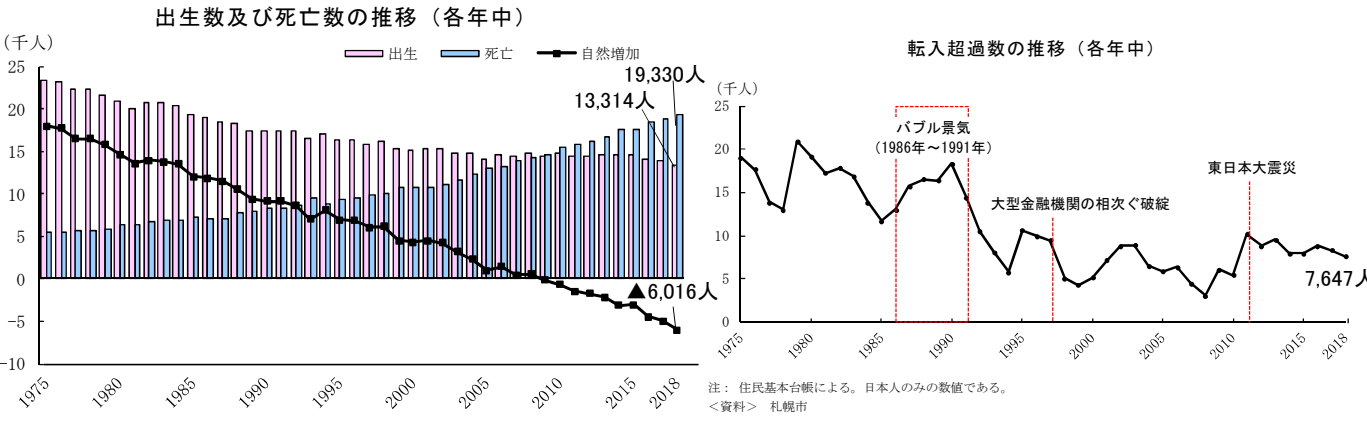


2 札幌市の人口動態(自然動態、社会動態)

人口の増減は自然動態(出生、死亡)、社会動態(転入、転出)によるもの。

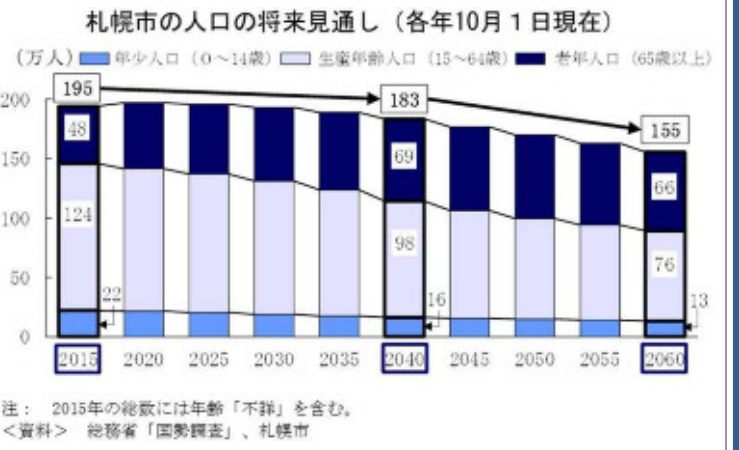
(1) 自然動態
 出生数は年間1万4千人程度が続いていたが、2017年は13,883人と1万4千人を割り、死亡数は2002年以降、一貫して増加を続けており、2018年は19,330人と1万9千人を超えた。自然動態(出生-死亡)では、2009年に初めて自然減となった。今後、少子高齢化の進展に伴い、減少は拡大を続ける見込み。

(2) 社会動態
 社会動態(転入-転出)において、札幌市は一貫して転入超過が続いているが、その規模は、バブル景気、大型金融機関の相次ぐ破綻、東日本大震災等の社会経済情勢の影響を受けている。



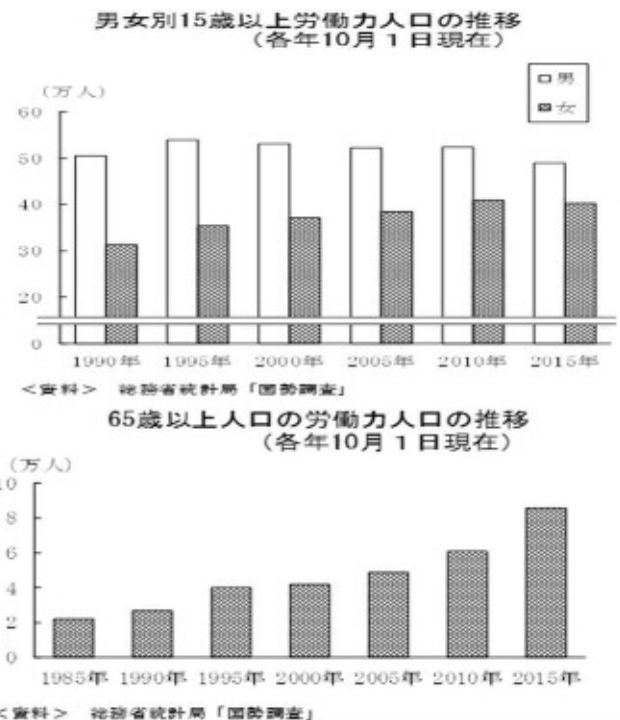
3 札幌市の人口推計

2015年(平成27年)国勢調査をもとに独自に推計を行った。
 結果、2015年の195万人から2060年には155万人と40万人の減少が見込まれる。
 また、生産年齢人口は、2015年の124万人から2060年には76万人となり48万人の減少が見込まれる。

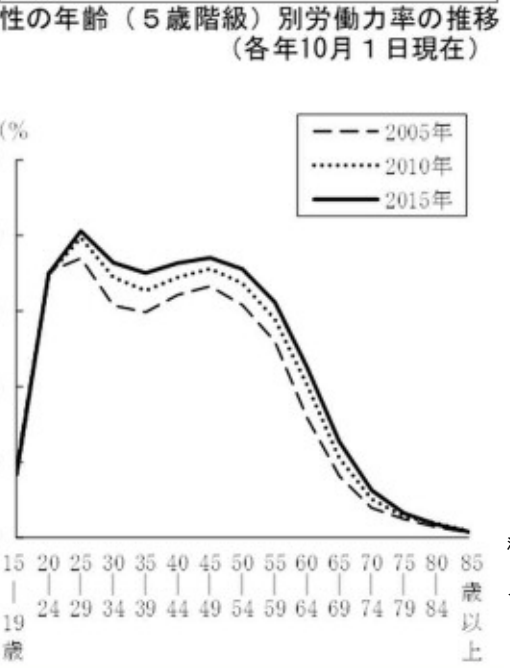


4 直近の社会変化

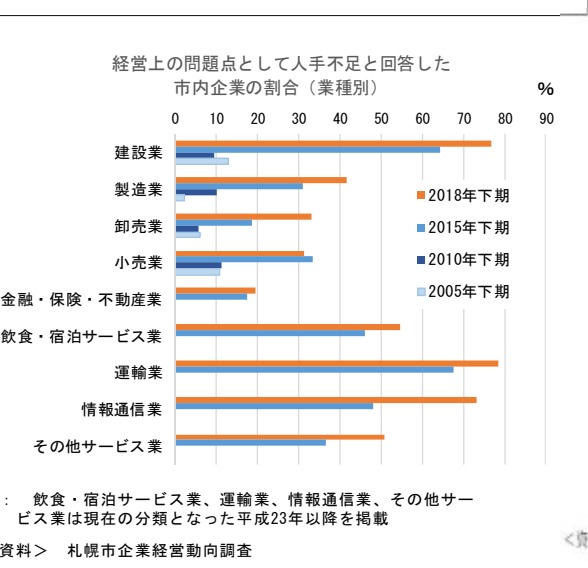
(1) 女性と高齢者の社会進出
 女性や高齢者の労働力人口は増加傾向で推移しており、今後も働く意欲のある女性と高齢者の社会進出を支える取組の継続が必要。



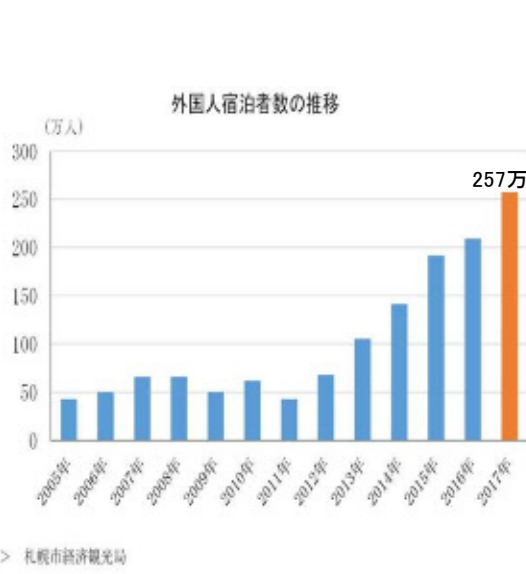
(2) 女性の年齢階級別就業率の改善
 女性の労働率は大きく上昇してきているものの、未だ「M字カーブ」が存在しており、女性が働きやすい環境づくりの継続が必要。



(3) 人手不足の高まり
 経営上の問題点として人手不足と回答した市内企業の割合は近年非常に高くなっている。特に建設業・運輸業・情報通信業において今後も人手不足は拡大する見込みから、外国人材も含めた人材確保対策が必要。



(4) インバウンドの拡大
 訪日外国人は、5年連続で過去最高を更新している。今後も増加が見込まれるため、観光分野の人材育成や受入れ環境のさらなる充実が必要。



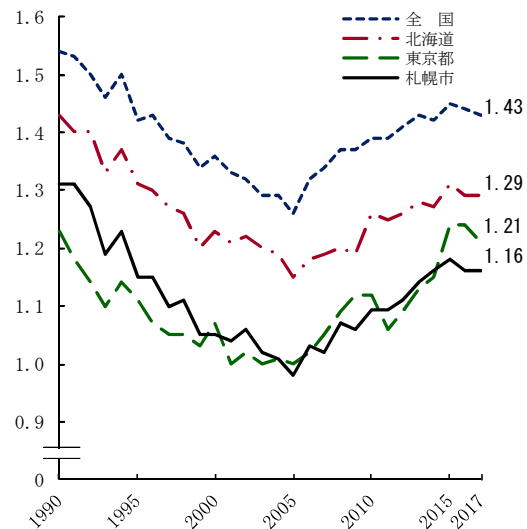
(5) 外国人人口の増加
 外国人人口は2016年に1万人を超え増加を続けている。新たな在留資格の創設に伴い、今後も増加が見込まれるため、受入れ環境の整備が必要。



5 自然動態からの考察

札幌市の2017年の合計特殊出生率は1.16で、これは都道府県で最も低い東京都(1.21)を0.05ポイント下回っている状況。合計特殊出生率が低い原因は、①高い未婚率、②夫婦間の出産数の少なさ によるものと考えられる。

全国、北海道、東京都及び札幌市の合計特殊出生率の推移



<資料> 厚生労働省「人口動態統計」、札幌市

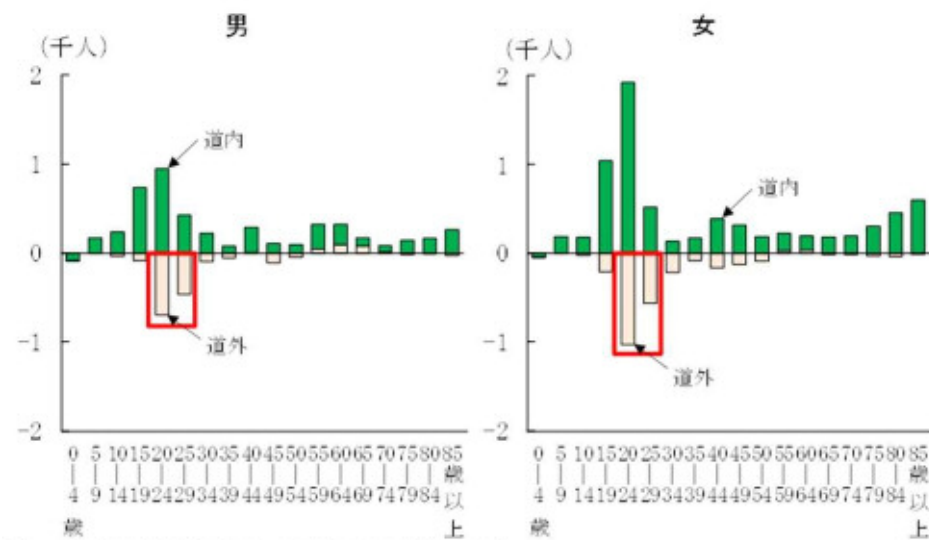
6-1 社会動態からの考察

札幌市の人口移動は道内からは転入超過である一方、道外へは転出超過となっている点特徴。

特に、年代別では20歳代若年層は、他の年代よりも道外に対する転出超過規模が突出して大きく、札幌市の課題であると考えられる。

また、20歳代の道外への移動理由別20歳代の転出超過数は男女とも就職などの職業的理由が多くなっている。

男女、道内・道外、年齢(5歳階級)別転入超過数(2018年中)



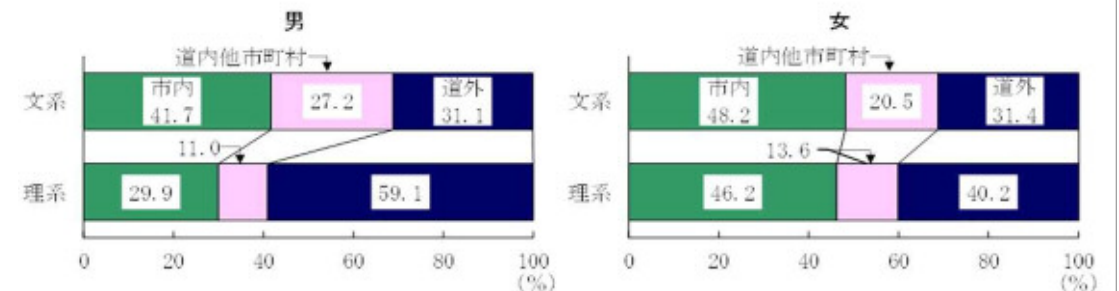
注: 住民基本台帳による。日本人のみの数値である。

<資料> 札幌市

6-2 大学等卒業者の就職地

就職地と就職希望地を比較すると、特に文系で市内を希望するものの希望がかなっていない場合があることがわかる。また、男女・文系理系ともに就職地にこだわらない学生(「市内・道内・道外」「特にない」と回答した学生)の多くが道外を選んでいることがうかがえる。このことから、就職地にこだわらない学生にとって魅力のある雇用環境づくりが必要となる。

男女、文系・理系、就職地別就職者の割合(2018年5月1日現在)

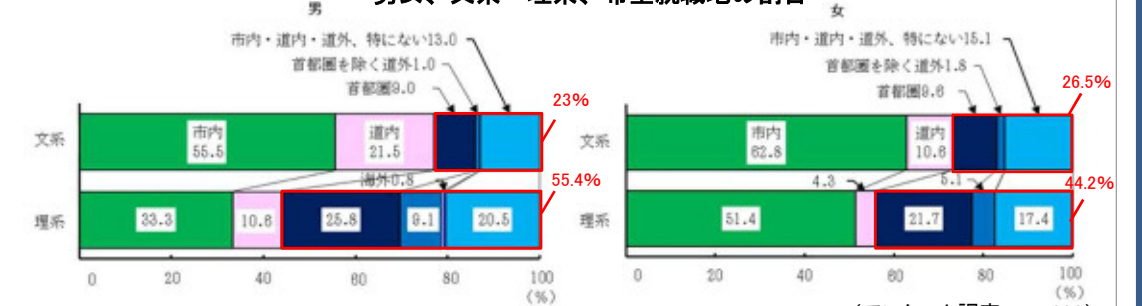


注: 2018年3月卒業者の数値である。

<資料> 市内各大学

(市内各大学の報告 n=7831)

男女、文系・理系、希望就職地の割合



注: 希望就職地は複数回答であり、市内は市内を選択肢に含み市内・道内・道外全てを選択した者を除き、道内は道内のみ、道内・道外、道内・海外を選択した者である。「首都圏」とは、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県である。

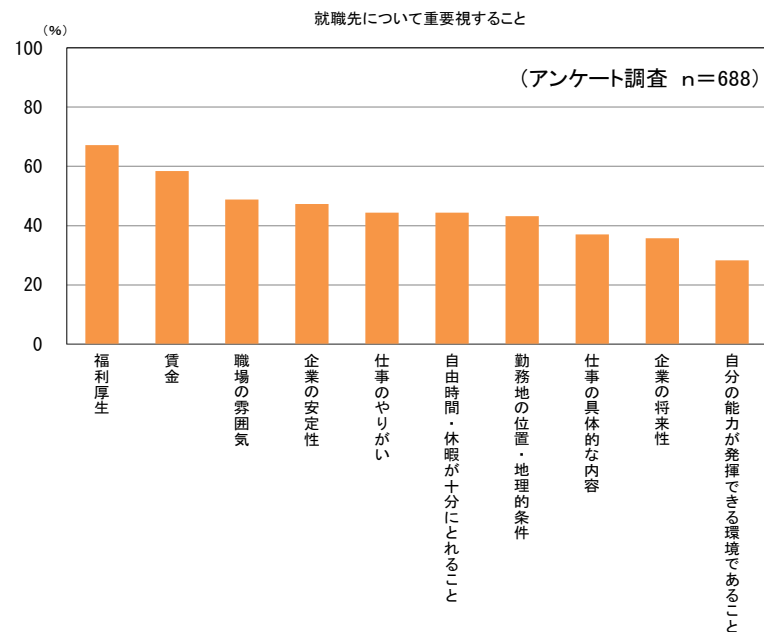
<資料> 札幌市「札幌で活躍したい若者の希望がかなうまちづくりに係る調査」

(アンケート調査 n=688)

6-3 就職先について重視すること

学生アンケートから就職先について重視することのうち、「福利厚生」「賃金」といった経済的な要素が6割を超えており、経済的な要素を重視していることがわかる。次いで、「職場の雰囲気」「企業の安定性」「仕事のやりがい」が続いている。

これらの視点から就職地にこだわらない学生にも選ばれる魅力のある環境づくりが必要となる。



<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

7 目指すべき将来~札幌市の基本的方針~

結婚や出産を望む市民の希望がかなえられる社会の実現を目指す

札幌市においては合計特殊出生率1.16に対し、希望出生率が1.65※となっており、市民の希望をかなえることで、合計特殊出生率を上昇させることは可能であると考えられる。そのため、所得の向上策と子育て世代の経済的負担の軽減などにより安心して子どもを産み育てられる環境づくりを進めるなど、結婚や出産を望む市民の希望がかなえられる社会の実現を目指す。

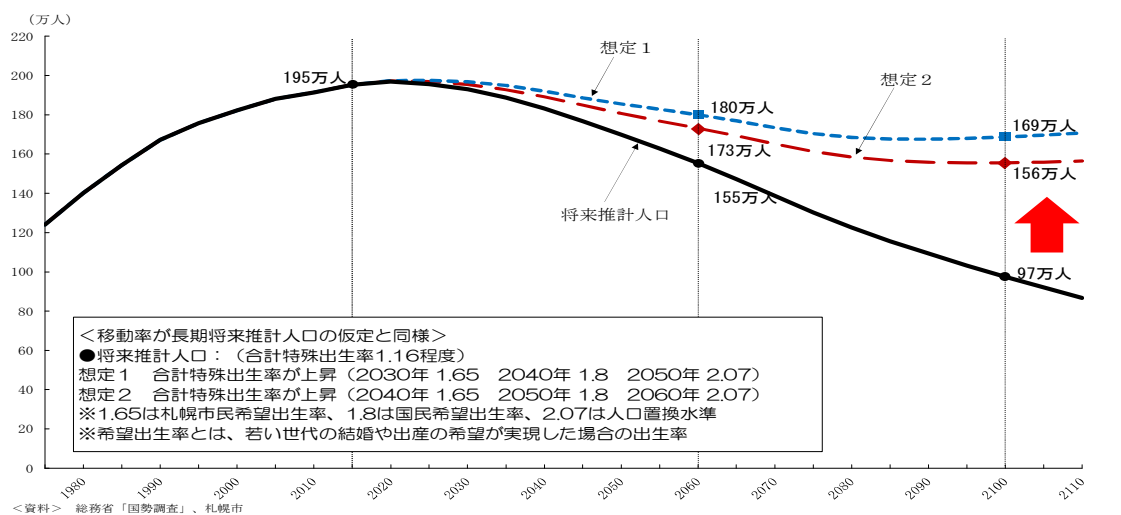
※若い世代の結婚や出産の希望が実現した場合の出生率を表し、札幌市が2018年に行ったアンケート等により算出。

人をひきつける魅力のある環境づくりを進める

札幌市の20歳代若年層では就職などを契機として首都圏へ流出する人が非常に多い。そのため、北海道・札幌経済の成長分野を振興して地域を活性化するとともに、誰もが働きやすく生きがいを感じられる社会を形成することで、人をひきつける魅力のある環境づくりを進める。

札幌市の人口の推移と長期的な見通し

○仮に、札幌市の合計特殊出生率が2030年に1.65程度、2040年に1.8程度、2050年に2.07程度まで上昇すると、2060年の人口は180万人となり、長期的には170万人前後で安定して推移するものと推計される。
○また、合計特殊出生率が1.65、1.8や2.07となる年次が10年ずつ遅くなると、2100年の人口が概ね13万人程度少なくなると推計。



<資料> 総務省「国勢調査」、札幌市